

2020年度

評価受審年度 2017（平成 29）年

【領域 1】

良い点・特色ある点として評価された項目

1. 使命と学修成果	1.1 使命
基本的水準 判定：適合	
特記すべきよい点（特色）	
<p>「医療の谷間に灯をともし」を目的に、全国都道府県が設置した医学部として使命を定め、使命から 3 つのポリシーや学修成果を明確に規定している。使命には、社会からの要請が明示されているだけでなく、医学部が社会に対して持つ責任も明示されている。</p>	
さらに推進した点	
<p>少子高齢化が進行する中、本学が目指している地域医療を担う総合医の育成はますます重要性を増しつつある。卒後 9 年間の地域医療従事期間も教育の一環として捉え直し、社会からの負託に一層責任を持って応えていけるよう、学内のコンセンサス形成や、学外広報への組み込みをさらに進めている。</p>	
今後の計画	
<p>令和 2 年広報活動において、高校進路指導教員の説明会資料を下に、地域説明会用についても大幅な改訂を実施した。今後このスライドを用いて大学説明を実施していく。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料1 令和2年度高校進路指導教員の説明会 資料2 令和2地域説明会資料</p>	

良い点・特色ある点として評価された項目

1. 使命と学修成果	1.1 使命
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
特記すべきよい点（特色）	
<p>「医療の谷間」は国内だけではない。開学当初は国内の地域医療に重点を置いていたが医療の谷間としての国際保健についても検討を開始している。</p>	
さらに推進した点	
<p>国際保健についても地域医療に含まれると解釈し、より広い視野で地域医療を捉えられるよう、卒業生の進路を学内外へ紹介する中でも、国際保健分野での活躍人材についての紹介を加えた。</p>	

今後の計画
学内、学外へ発信していく。
改善状況を示す根拠資料
資料2 令和2年度地域説明会資料

今後改善が見込まれる項目

1. 使命と学修成果	1.1 使命
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
医学研究の達成をどのように使命に組み込むか、さらなる検討が望まれる。特に自治医科大学の使命との整合性の検討が課題となる。	
現在の状況	
<p>本学の医学研究の達成については、以下の様なカリキュラムや取り組みが進行中である。今年度在学生に対しては、予定されていた2年次から5年次の地域医療関連実習の終了毎に行う報告会（グループワーク）はコロナ禍の中で、実施されなかった。また、地域医療を進める大学院大学の立場で、在学期間（6年）と卒業後の地域医療従事期間（9年）を合わせた14年間を教育期間として捉え直し、地域医療の現場から発信される医学研究を学内教員がCRST（Clinical Research Support Team）という組織で支援している。本学の使命と整合性の取れた医学研究の実践が実現されていると考えられる。</p>	
今後の計画	
<p>「使命（ミッション）」改訂に際し、文言として組み込む。在校生の研究発表の機会については次年度以降復活させ、地域医療の現場に直に触れた機会に合わせて、地域医療の充実には医学研究が不可欠であるという認識を涵養している。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
資料2 令和2年度地域説明会資料	

良い点・特色ある点として評価された項目

1. 使命と学修成果	1.2 大学の自律性および学部の自由度
基本的水準 判定：適合	
特記すべきよい点（特色）	
設置母体である都道府県からの意見を聞きながら、教務委員会が組織自立性を持って、カリキュラムの作成、教育資源の配分を行っている。	
さらに推進した点	
教務委員会の中に、医学教育分野別評価改善・電子シラバスWGを設立し、教務委員会主導で次回受審へ向けて、外部評価で指摘された改善点への取り組みを継続している。	
今後の計画	
カリキュラム改善WGにてさらなるカリキュラムの改善を検討中である。	

改善状況を示す根拠資料
資料3 令和2年度医学分野別評価改善・電子シラバス構築WG議事次第

良い点・特色ある点として評価された項目

1. 使命と学修成果	1.2 大学の自律性および学部の自由度
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべきよい点（特色）	
学生にとって学びやすいカリキュラムをモットーに、学生からの意見を重要視しながらカリキュラムの検討を行っている。	
さらに推進した点	
学生からの意見を聞くカリキュラム連絡協議会が一層活発化し、様々な意見交換、改善希望などが出され、具体的な意見の吸い上げができています。	
今後の計画	
カリキュラム連絡協議会の意見をカリキュラム評価部会やカリキュラム部会へ反映させる機構を作る必要がある。	
改善状況を示す根拠資料	
資料4 カリキュラム連絡協議会議事録	

良い点・特色ある点として評価された項目

1. 使命と学修成果	1.3 学修成果
基本的水準 判定：適合	
特記すべきよい点（特色）	
<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与の方針であるディプロマ・ポリシーに、卒業時のアウトカムである「学修成果」としてのコンピテンスとコンピテンシーが記載されている。 ・在学中に学生が段階的に資質・能力を涵養できるように、学修成果の下位領域を中項目、小項目として明確に記載している。 ・卒業生の社会的責任が明確に学修成果に記載されている。 	
さらに推進した点	
教育要項の中に、科目ごとのディプロマ・ポリシー項目（小項目）を新たに記載した。また、11月に6学年にディプロマ・ポリシーの各項目に対する学習到達度自己評価アンケート調査を実施し、カリキュラムの改善に向けた基礎資料とした。	
今後の計画	
<p>各科目のディプロマ・ポリシーの整合性、網羅性について、医学教育分野別評価改善・電子シラバス WG およびカリキュラムポリシー・ディプロマポリシー検討WGで検討を開始し、カリキュラム部会へも提言していく。</p> <p>6学年へのディプロマ・ポリシーの各項目に対する学習到達度アンケート調査は毎年実施し経年的評価を行うこととした。</p>	
改善状況を示す根拠資料	

資料5 令和2年度教育要項
資料6 6学年アンケート集計結果

改善した項目

1. 使命と教育成果	1.3 学修成果
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
「学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、そして家族を尊重し適切な行動をとることを確実に修得させなければならない」ことを明確にするために、「行動規範」を作成すべきである。	
改善状況	
教務委員会が主体となって学生委員会にも投げかけ、行動規範（案）を作成した。教職員や学生へのパブリックコメントを経て、現「医学部の行動規範、行動指針」が策定され、2019年度から学生便覧へ掲載すると共に、毎年4月に実施している教務委員会オリエンテーションにおいて全学生に周知した。	
今後の計画	
現状に合わせて定期的に改訂していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料7 医学部学生の行動規範、行動指針	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命と教育成果	1.3 学修成果
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
卒前教育に続く卒後臨床研修との接続性について、学修成果への記載を検討すべきである。卒前教育、卒後研修の8年間の医師養成を通じて、卒業生が自治医科大学の使命を果たすためのトレーニングが重要であることを明記すべきである。	
現在の状況	
卒後9年間の地域医療従事期間を教育の一環として捉え直し、社会からの負託に一層責任を持って応えていけるよう、学内のコンセンサス形成や、学外広報への組み込みを進めている。	
今後の計画	
今後改訂時に卒前卒後の接続性についてもディプロマ・ポリシーの中に明示する。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命と教育成果	1.3 学修成果
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
医学研究に関する学修成果の設定を検討することが望まれる。	
現在の状況	
「医学研究」についての本学としての立場を地域医療学にも広げて学内で共有しつつある。2年次の地域医療学のワークショップの授業では、地域医療の現場経験者（本学卒業生）が研究を含めたキャリア形成について講義し、その講義に基づき学内教員をチューターとした議論をしている。	
今後の計画	
今後改訂時にディプロマ・ポリシーの中に明示できるよう議論を進める。	
現在の状況を示す根拠資料	

良い点・特色ある点として評価された項目

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
基本的水準 判定：適合	
特記すべきよい点（特色）	
教務委員会が医学部の使命や3つのポリシーを提案し、これに対して全教職員と学生を対象にパブリックコメントを集め、全学で協働して使命を作成したことは高く評価できる。	
さらに推進した点	
特にない。同様のプロセスを「医学部の行動規範・行動指針」策定に際してもとった。	
今後の計画	
今後同様のプロセスを介して、定期的に改訂を行っていく。	
改善状況を示す根拠資料	

良い点・特色ある点として評価された項目

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべきよい点（特色）	
全国都道府県、卒業生などのステークホルダーから幅広く意見を収集していることは高く評価できる。	
さらに推進した点	
引き続き、意見を集める機会として定期的な会合を開催する。	
今後の計画	

継続する。
改善状況を示す根拠資料
資料8 令和2年主幹課長会議、入試担当者会議資料 資料9 令和元年度顧問指導・学外卒後指導委員合同会議資料

【領域2】

良い点・特色ある点として評価された項目

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
基本的水準 判定：適合	
特記すべきよい点（特色）	
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習を4年次から開始し、十分な期間を定めていることは高く評価できる。 ・少人数グループ学習、basic PBL や症例基盤型学習などの学習意欲を高める授業方法を多く取り入れていることは評価できる。 ・学生寮を活用した協働学習は、学習意欲を高める学習環境として、高く評価できる。 	
さらに推進した点	
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習の教育要項を系統的に再作成した。BSL 連絡協議会が主体となって、各科の臨床実習を紹介しあい、教育手法の改善を試みている。 ・コロナ禍を機に、メディア教材を用いた臨床実習学習についても取り組んだ。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きカリキュラムの改善を行っていく。 ・定員増で手狭になった学生寮を増築中である。 	
改善状況を示す根拠資料	
資料5 令和2年度教育要項 資料10 令和2年度4学年臨床実習、令和2年度5・6年度学年臨床実習	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
臨床実習前カリキュラムが過密である。この時期の学生が効率よく学べるように、授業内容の調整などを行うべきである。	
現在の状況	
教育要項の改定に伴い、各科目のモデル・コア・カリキュラム平成28年度改訂版対応項目を明示させた。特に過密な3年次について、試験評価部会が定期試験・再試験の評価を行い、その結果を教務委員会で検討し、各科目責任者にフィードバックし適切な評価の実施に努めた。	
今後の計画	

試験とモデル・コア・カリキュラム平成 28 年度改訂版とのレベル比較などを行い、講義内容などの評価・改善を予定している。
現在の状況を示す根拠資料
資料5 令和2年度教育要項 資料11 試験評価部会（医学教育センター）資料

良い点・特色ある点として評価された項目

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準 判定：部分的適合	
特記すべきよい点（特色）	
初年次の思考の整理、3年次の臨床推論、テュートリアルおよび症候学で分析的で批判的思考のカリキュラムを実践している。	
さらに推進した点	
継続中である。思考の整理については、初年次の統合科目「医科教養」の中に思考の表現として組み込み、PBL や World Café 等と関連させながら学習するプログラムへ変更した。臨床推論では基礎医学が臨床推論に必須の知識であることを教えるようさらに工夫している。診療所における臨床推論という講義も追加した。このカリキュラムでは現場での知識の運用ができることを目標として行っている。	
今後の計画	
引き続きカリキュラムの改善を行っていく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料5 令和2年度教育要項	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
カリキュラムの中で必修科目として、医学生が主導あるいは参加する小規模な研究プロジェクトを導入すべきである。	
現在の状況	
地域医療学・社会学系カリキュラムの中で、小規模な研究課題を自ら見つけ、自ら研究できるよう指導している。さらにこのような態度が卒後にも繋がるように、カリキュラムを少しずつ改変し始めている。	
今後の計画	
地域医療学実習での実習後発表会を構築し直し、自ら研究課題を得て自ら研究できる機会として、継続的に発展させていくような仕組みを作る。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
低学年から積み上げてきた医学統計学と臨床疫学の知識を臨床実習に活用し、学生が臨床の場で EBM の手法を実践できる能力を養うべきである。	
現在の状況	
1 年次から 3 年次の関連する科目を担当する教員間で、情報共有がされている。エビデンスに基づいた診療を学ぶため、M4 BSL 地域医療 I において EBM のステップに基づき、ケースを用い PICO で定式化し、臨床的疑問について文献検索を行っている。	
今後の計画	
臨床前のカリキュラムでも段階的な学習ができるよう、社会・地域医療学系カリキュラム改善 WG において検討していく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料10 令和2年度4学年臨床実習、令和2年度5・6年度学年臨床実習	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.3 基礎医学
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを基礎医学カリキュラムに反映させることが望まれる。	
現在の状況	
将来的に必要とされる先進医療や科学研究については、2 年次の分子医学入門において、遺伝子治療や再生医学などのトランスレーショナルリサーチを講義している。先天性代謝異常症の質量分析を用いた新しいマススクリーニング法や染色体異常症に対する非侵襲的出生前診断法 (NIPT) など、病態生化学で講義している。これらの先端的研究法の実際として、2 年次選択セミナーや 6 年次フリーコーススチューデントコースなどの選択科目にて実習を行なっている。	
今後の計画	
上記を推進する。また、選択科目への取り組みをさらに推進する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料5 令和2年度教育要項	

良い点・特色ある点として評価された項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準 判定：適合	
特記すべきよい点（特色）	

行動科学および医療倫理学に関して、初年次から6年次まで地域医療を基盤としたカリキュラムを継続的に配置していることは高く評価できる。
さらに推進した点
継続中である。
今後の計画
少子高齢化、人口偏在の時代における地域医療教育は極めて重要である。年々変化する地域医療の現場を反映したカリキュラム内容になるように改変を行っていく。
改善状況を示す根拠資料

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学のカリキュラムに反映させることが望まれる。	
現在の状況	
社会・医療システムの変化については、本学が毎年開催する地域医療フォーラムにおいて、学長が基調講演を行い、専門家も招いて最新の事情を踏まえ参加者全員で議論し、理解を深めている。内容は逐次学生への講義にも反映させている。例えば、1年次における医科教養（旧医学概論）の中のbasic PBLはチューター付きのグループ演習であるが、この中でも毎年いくつかのグループが社会と医療システムに関連したテーマを取り上げ、1年生全員が参加する自治医科大学と地域医療についてのワークショップで発表し、全体で議論するようにしている。	
今後の計画	
上記をさらに推進する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料12 第12回地域医療フォーラム2019	

良い点・特色ある点として評価された項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：適合	
特記すべきよい点（特色）	
<ul style="list-style-type: none"> 卒業後に地域で求められる医療的責務を果たすためのカリキュラムを実践していることは高く評価できる。 地域医療院外実習（CBL）など出身都道府県での実習の機会を設け、卒後臨床研修との接続性を重要視している。 	
さらに推進した点	

継続中である。CBL の指導教員の研修会は毎年行っており、指導法の改善をさらに推進する。
今後の計画
<p>卒後 9 年間の地域医療従事期間を教育の一環として捉え直し、接続性を持った教育が行えるよう努めていく。出身都道府県の研修先となる病院で実習する都道府県拠点病院実習を充実させるとともに、CBL の内容について、特に外来実習の内容などは卒後臨床研修とリンケージするように努めていく。</p> <p>4 年次診断学実習 1、2 についても、5 年次シミュレーション実習と連携させ、シミュレーションセンター管轄のもと次年度以降臨床実習 1～3 として実施予定である。</p>
改善状況を示す根拠資料
資料13 令和元年度地域医療院外実習（CBL）報告書

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
診療参加型臨床実習の効果を上げるために、重要な診療科の臨床実習を適切な期間行うべきである。	
現在の状況	
BSL 連絡協議会で各科の BSL 担当者が一堂に会し、各科での現状と問題点を情報交換し実習内容を把握するように努めている。今年度はコロナ禍のため、メディア教材を用いた臨床実習学習の開発が進んだ。	
今後の計画	
上記を基に 5 年次の臨床実習カリキュラムを見直す予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
患者安全に配慮し、学生に対して病院職員と同等の医療安全や感染防御の研修を検討すべきである。	
現在の状況	
2014 年度より新設された 4 年次 BSL 感染症科の実習では、臨床現場における患者安全にも配慮した感染防止対策を実践的に学ぶカリキュラムが実施されている。	
今後の計画	
今後は安全管理体制を系統的に学ぶカリキュラムをどこで行うか検討する。	

現在の状況を示す根拠資料

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.6 プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
1年次から2年次で行われている基礎医学系科目での内容調整、教育の効率化を考え、水平的統合の在り方を検討する事が望まれる。	
現在の状況	
医学教育分野別評価改善・電子シラバス構築 WG において、昨年度導入した教育要項記載のコンピテンシー（ディプロマポリシー対応項目）について記載方法の見直しを行い、講座により不統一であった項目記載方法を改善すべく、令和3年度シラバスの新たな作成方法を講座に周知した。	
今後の計画	
今後、整合性網羅性の検証を行い、カリキュラムに反映させていく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料3 令和2年度医学教育分野別評価改善・電子シラバス構築WG次第 資料5 令和2年度教育要項	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.7 プログラム管理
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
カリキュラム部会の構成委員に学生の代表を含むべきである。	
現在の状況	
学生自治会の全学年ごとカリキュラム委員が出席するカリキュラム連絡協議会で、活発な意見交換や提言がなされ、医学教育センター、学事課を通じて問題解決に努めている。	
今後の計画	
今後、カリキュラム部会への学生の意見反映方法を検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料4 カリキュラム連絡協議会議事録	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.7 プログラム管理
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
カリキュラム部会の構成委員に学生の代表を含むべきである。	

現在の状況
2015年度カリキュラム部会運営会議を教員、卒業生、在学生、一般市民（SP会メンバー）を構成員として開催したが、その後開かれていない。
今後の計画
引き続き、教員と学生以外の教育の関係をカリキュラム部会の構成委員とし、意見を反映できる体制を定着させる。
現在の状況を示す根拠資料

良い点・特色ある点として評価された項目

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
基本的水準 判定：適合	
特記すべきよい点（特色）	
6年次に出身都道府県での研修先病院で臨床実習を行う機会を設けていることは評価できる。	
さらに推進した点	
今年度はコロナ禍で中止となったが、来年度以降継続予定である。	
今後の計画	
研修病院での選択必修BSL後に同一期間で選択BSLを継続延長するカリキュラムがあるがあまり実施されていない。一層の普及を目指す。	
改善状況を示す根拠資料	

良い点・特色ある点として評価された項目

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべきよい点（特色）	
臨床実習や地域医療院外実習(CBL)に関して、卒業生からの意見の聴取や各都道府県での会合により情報を得ている。	
さらに推進した点	
継続中である。	
今後の計画	
CBL 前の準備として直前に導入した地域学講義各論 3 についても効果を検証していく。	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
-------------------	-------------------------

質的向上のための水準 判定：適合
改善のための示唆
地域や社会の意見を教育プログラムの改良に活かすことが望まれる。
現在の状況
本学が主催する地域医療フォーラムや住民シンポジウムなどは「地域や社会」と「医療」との関係性、さらには本学の使命にも関心を寄せる多様な人々と接する機会であり、そこで議論される内容は医学教育の原資となる示唆に富んでいる。こうした場に参加した学内教員が教育プログラムを考案している。
今後の計画
上記をさらに推進する中、医学教育に必要な社会的要請をキャッチし、プログラムに反映していく体制の導入に努める。
現在の状況を示す根拠資料
資料12 第12回地域医療フォーラム2019

【領域3】

良い点・特色ある点として評価された項目

3. 学生評価	3.1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・画像、音声、動画を取り入れたマルチメディア型 CBT 式の総合判定試験は知識、技能に対する独自の総括的評価法として高く評価できる。 ・従前から卒業要件として技能・態度を総括的に評価する Post-CC OSCEを導入し、継続的に改良していることは評価できる。 	
現在の状況	
いずれも検討部会で検討を重ね、マルチメディア形式総合判定試験の記述式動画・音声付連問は経年的に多様性・問題数を増しながらも 10 年間安定した試験を運営できている。今年度はコロナ禍のため、マルチメディアを用いた Post-CC OSCE を独自に作成、実施した。	
今後の計画	
対象問題領域を広げるため、問題が多い循環器領域や神経領域以外の領域についても作問ができるかをさらに検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生評価	3.1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	

低学年から確実に態度評価を導入し、学生の成長を促すべきである。さらに Moodle を使った評価の導入を確実に進めるべきである。
現在の状況
Moodle の態度評価について FD を実施し、低学年においても一定数の科目からは態度評価がされるようになった。2018 年度から 4 年次、5 年次の 3 学期に BSL カリキュラム改善 WG 委員が、学生全員に、個別で面談を行い、Moodle 評価や BSL 学科評価のフィードバックを実施し、学びへの助言を行っている。
今後の計画
より一層の普及を目指す。
現在の状況を示す根拠資料

改善した項目

3. 学生評価	3.1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
科目別で行われている試験について、その内容を外部の専門家が検証する仕組みを作るべきである。	
改善状況	
医学教育センターに試験評価部会を設置し、教育の専門家が定期試験・再試験を評価を行い各科目責任者にフィードバックした事で質の向上が図れた。	
今後の計画	
試験数のもっとも多い 3 年次より開始した。今後他の学年にも広げていく。また、試験結果の相関についても IR を通じて調査していく予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 11 試験評価部会（医学教育センター）資料	

改善した項目

3. 学生評価	3.1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
科目別で行われている試験に対する疑義を学事課や教務委員会が組織として受け取るシステムを作るべきである。	
改善状況	
学事課教務係に試験に対する疑義を受け付けるシステムを作成し、教務のオリエンテーションで学生に周知している。	
今後の計画	
疑義があったときは試験へ反映させていく。	
改善状況を示す根拠資料	

良い点・特色ある点として評価された項目

3. 学生評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
新しい評価法としてマルチメディア型 CBT や Moodle を活用した評価を導入している。	
現在の状況	
継続中である。さらにコロナ禍の中、メディア授業の作成に際し、Moodle を活用した課題や問題の作成が進んだ。	
今後の計画	
Moodle 評価については、電子シラバスと連動させ組織的に管理するシステムを立ち上げる予定である。今後、メディア上での評価方法と対面試験との棲み分けを検討していく。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
総合判定試験以外の各科目試験の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。	
現在の状況	
医学教育センターに試験評価部会を設置し、教育の専門家が定期試験・再試験を評価する仕組みを構築し、評価を開始した。結果は教務委員会で検討し、各科目責任者にフィードバックしている。	
今後の計画	
今後他の学年にも広げていく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 11 試験評価部会（医学教育センター）資料	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
評価の公平性・透明性を高めるために外部評価者を活用することが望まれる。	
現在の状況	

医学教育センターに試験評価部会を設置し、教育の専門家が定期試験・再試験を評価する仕組みを取り入れた。
今後の計画
試験数のもっとも多い3年次より開始し、今後他の学年にも広げていく。蓄積した各科目評価をIRにて分析・評価し、妥当性について検討していく。
改善状況を示す根拠資料
資料11 試験評価部会（医学教育センター）資料

今後改善が見込まれる項目

3. 学生評価	3.2 評価と学習との関連
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
学修成果を測定するために各科目における学習内容や評価の情報を大学全体として組織的に管理し、それを包括的に評価する体制を構築すべきである。	
現在の状況	
教育要項、4学年および5・6学年BSL教育要項に盛り込まれる記載内容について見直しを行い、情報を分析できるよう共通形式へ移行した。科目ごとに医学教育モデル・コア・カリキュラム平成28年度改訂版に示された到達目標と本学のディプロマ・ポリシーを新たに項目として加えて、別掲載であった成績評価方法および試験方法も併せて掲載することにより学習内容や評価の情報が明確になり、情報が容易に解析できるようになった。教育要項を令和元年度には電子化し、電子シラバスを導入した。	
今後の計画	
電子シラバス上の情報について、医学教育分野別評価改善・電子シラバスWGにおいて、科目のナンバリング・記載方法など引き続き改善を図っていく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料5 令和2年度教育要項 資料9 令和2年度4学年臨床実習、令和2年度5・6年度学年臨床実習	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生評価	3.2 評価と学習との関連
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
学生一人ひとりが自分の学習進捗を認識し、学習意欲を刺激する評価法の導入を検討すべきである。	
現在の状況	
平成30年度に導入した教務委員会委員が中心となった、4年次、5年次の全学生を対象とした個人面談は、令和元年度については、新型コロナウイルス感染症のため、実施できなかった。	
今後の計画	

令和2年度の実施に向けて検討している。低学年にも拡大を進める。
現在の状況を示す根拠資料

今後改善が見込まれる項目

3. 学生評価	3.2 評価と学習との関連
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
基本的な知識の修得と科目を越えた統合的学習を促進するために、適切な試験の回数と評価方法を検討することが望まれる。	
現在の状況	
医学教育センターに試験評価部会を設置し、教育の専門家が定期試験・再試験を評価する仕組みを取り入れた。	
今後の計画	
今後試験の回数、評価方法も検討していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料11 試験評価部会（医学教育センター）資料	

【領域4】

良い点・特色ある点として評価された項目

4. 学生	4.1 入学方針と入学選抜
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・大学の使命に沿ってディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーが定められ、これらとアドミッション・ポリシーとの関連が明確に示されている。 ・社会の要請に対応し、アドミッション・ポリシーを定期的に見直している。 	
現在の状況	
今後も継続する。アドミッション・ポリシーについては、令和2年度入試選抜方法の見直し・変更に際し、変更を行った。	
今後の計画	
各ポリシーの定期的な見直しを予定している。	
現在の状況を示す根拠資料	

良い点・特色ある点として評価された項目

4. 学生	4.2 学生の受け入れ
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	

地域医療や社会からの要請に応え、学生の受け入れ数について、他の教育関係者（地域医療に関連する関係省庁連絡会議）と協議して定期的に見直している。
現在の状況
定期的に見直しを実施している。
今後の計画
引き続き IR 部門で情報解析を行いつつ、学生の受け入れ数と特性については、都道府県の担当者を含む関連分野の協議者とも密接な連携を図り、定期的な見直しを行う。
現在の状況を示す根拠資料

良い点・特色ある点として評価された項目

4. 学生評価	4.3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・Students' Mentor System（学年担任制度）、学習支援部会、学生生活支援センターなどの学習支援・学生支援制度が整備されていることは評価できる。 ・Big Brothers and Sisters system および寮生活での学生同士の支援が機能していることは評価できる。 	
現在の状況	
継続中である。	
今後の計画	
現在の状況を示す根拠資料	

良い点・特色ある点として評価された項目

4. 学生評価	4.3 学生のカウンセリングと支援
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・大学の使命に基づき、教育プログラムにおいて初年次から卒業時まで継続して行われるキャリアガイダンスや卒後指導委員会によるキャリアプランニング支援が行われていることは高く評価できる。 ・都道府県人会やBig Brother and Sister Systemなどがキャリアガイダンス機能を果たしている。 	
現在の状況	
継続中である。	
今後の計画	

現在の状況を示す根拠資料

今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.4 学生の参加
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
学生の代表が正式委員として使命の策定、教育プログラムの策定・管理・評価および学生に関する諸事項を審議する委員会に参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行すべきである。	
現在の状況	
学生からの意見を聞くカリキュラム連絡協議会が一層活発化し、様々な意見交換、改善希望などが出され、具体的な意見の吸い上げができています。年に3回行われる学長・学生懇談会の場でも学生からの提言がなされるようになった。	
今後の計画	
カリキュラム連絡協議会の委員をカリキュラム部会やカリキュラム改善部会へ反映させる機構を作る必要がある。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料4 カリキュラム連絡協議会議事録	

良い点・特色ある点として評価された項目

4. 学生	4.4 学生の参加
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
学生のボランティア活動や国際的な交流を支援していることは評価できる。	
現在の状況	
継続中である。コロナ禍で一時中止しているが、状況を見て再開予定である。	
今後の計画	
現在の状況を示す根拠資料	

【領域5】

良い点・特色ある点として評価された項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・学外の教育病院の指導者を対象としたFDを定期的で開催していることは評価できる。 ・各都道府県から顧問指導委員・学外卒後指導委員を集め、合同会議を開催し学生指導に関するFD活動を行っていることは高く評価できる。 	
現在の状況	
継続中である。	
今後の計画	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
教育資源としてカリキュラムの主要な構成要素ごとに十分な教員が確保されていることを担保するために、各教員のエフォート率を大学が組織的に管理すべきである。	
現在の状況	
各教員のエフォート率を組織的に管理するため、教育要項を電子化し、オンライン学務システム（Campus Square）上へ載せた。前段階として、教育エフォートが正確に把握できるよう、実習等に関わる全員の教員名を教育要項に記載した。	
今後の計画	
将来的に電子シラバス上で、教員エフォートを集計するシステムを導入する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料5 令和2年度教育要項	

今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
教員一人ひとりがどのような教育活動を行っているかをデータとして集め、診療、研究だけでなく、教員の教育活動への評価を行うべきである。	

現在の状況
各教員のエフォート率を組織的に管理するため、教育要項を電子化し、オンライン学務システム（Campus Square）上へ載せた。
今後の計画
将来的に電子シラバス上で、教員エフォートを集計するシステムを導入する。
現在の状況を示す根拠資料

今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
全ての教員がカリキュラム全体を理解できるよう、教員支援を行うべきである。	
現在の状況	
医学部教員 FD を実施した。	
今後の計画	
効果を含め、医学教育センターFD 部会で検討していく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料 14 令和元年度 FD 開催資料	

【領域 6】

良い点・特色ある点として評価された項目

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・大学から学外臨床トレーニング施設に教員が派遣され、学生の臨床実習の指導を行っている。	
現在の状況	
地域臨床教育センターの拡充が進んでいる。	
今後の計画	
令和 2 度より新たに同施設への M5 院外 BSL（一般外科）を新たに導入予定した。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
学生が臨床実習で経験する患者数と疾患分類を把握すべきである。	
現在の状況	
各 BSL クール終了時に、Moodle 上に学生各自が経験症例を記録するシステムが稼働している。学生全員が記入するには至っておらず、4 学年で約 2 割、5 学年で約 1 割の記載である。	
今後の計画	
学生が臨床実習で経験する患者数及び疾患分類を把握するシステムを検討していく。	
現在の状況を示す根拠資料	

改善した項目

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
メディカルシミュレーションセンターで学生が経験する臨床技能トレーニング内容を把握すべきである。	
改善状況	
メディカルシミュレーションセンターに学生が同センターを利用して行った	

学習記録を保存するシステムを導入した。
今後の計画
学生評価の中に組み込む仕組みを検討する。
改善状況を示す根拠資料
資料15 メディカルシミュレーションセンター運営状況

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
学修成果に学生が到達するために、経験すべき患者数と疾患分類を観点にどのような臨床トレーニング施設を確保すべきかを検討すべきである。	
現在の状況	
各BSLクール終了時に、Moodle上に学生各自が経験症例を記録するシステムが稼働している。学生全員が記入するには至っておらず、4学年で約2割、5学年で約1割の記載である。	
今後の計画	
学生が臨床実習で経験する患者数及び疾患分類を把握するシステムを卒後研修との連続性も視野に入れながら検討していく。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
学生の臨床実習の内容が臨床トレーニング用施設により影響されるため、現在使用している臨床トレーニング用施設がその地域住民のニーズに corres ponding しているかを評価し、学生の臨床経験が不足する場合は複数の別の施設も教育に利用するなど検討することが望まれる。	
現在の状況	
臨床実習の内容に関してよりコモンな疾患を経験させる観点から、M4 BSL 地域医療 I の外来診察実習は本学附属病院から新小山市民病総合診療科外来へと移行した。また、M5 BSL 耳鼻咽喉科においてもよりプライマリーな経験ができるよう市中のクリニックでの実習を開始した。	
今後の計画	
コロナ禍のため開始が遅れている地域臨床教育センター所属施設での院外BSL（一般外科）を実施予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料10 令和2年度4学年臨床実習、令和2年度5・6年度学年臨床実習	

改善した項目

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
情報通信技術の使用倫理規定を整備すべきである。	
改善状況	
情報センター、情報システム課が中心となり平成 31 年 4 月に「自治医科大学情報倫理規程」を制定した。	
今後の計画	
規定の周知、順守を徹底させる。	
改善状況を示す根拠資料	
資料16 自治医科大学情報倫理規程	

良い点・特色ある点として評価された項目

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・大学附属病院での臨床実習では全学生に PHS だけでなく iPad を配布し、臨床実習環境を整備している事は評価できる。	
現在の状況	
学生が個人で iPad をすでに所有するようになり、一部の希望者に貸与している。コロナ禍でのメディア授業の実施を踏まえ、希望する学生に通信機器を貸与した。	
今後の計画	
現状の貸与システムを継続する一方で、入学予定者に対しては、購入すべき PC のスペックを公開していく。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
診療参加型臨床実習の確立のために、学生が医師の診療の補助に役目を果たせるよう、電子カルテの運用方法を検討することが望まれる。	
現在の状況	
学生用の診療録は附属病院電子診療録と別になっている。2018 年 1 月に新システムが稼働し、両者を同一モニタ上に開くことが可能になった。学生が記載した内容を患者診療録に乘せる際には、担当教員による転記が必要である。	

今後の計画
学生の診療参加が損なわれないようにしたい。学生の診療録記載への上級医・指導医の監査、医療安全の確保がなされた上で、新たな電子診療録の運用を病院側と検討する。
現在の状況を示す根拠資料

良い点・特色ある点として評価された項目

6. 教育資源	6.5 臨床トレーニングの資源
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・医学教育の専門家がカリキュラム開発、指導および評価方法の開発に活用されている。	
現在の状況	
継続中である。	
今後の計画	
現在の状況を示す根拠資料	

【領域 7】

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
学修成果を観点に学生の学習進度をモニタし、カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩を分析し、現行カリキュラムでの課題の設定を行い、教育プログラムの改善をすべきである。	
現在の状況	
学生の学習進度を効率的に集約モニタする目的で、2018 年度に電子シラバス構築 WG を立ち上げ、電子シラバスに関連したブレインストーミングを実施した。2019 年秋に第 1 次システムを導入した。	
今後の計画	
引き続き内容を改善し、分析につなげる予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料3 令和2年度医学教育分野別評価改善・電子シラバス構築WG次第	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
IR 部門が評価に有用なデータを収集し、カリキュラム評価部会でその結果を分析し、カリキュラム部会と教務委員会に提言するシステムを早急に構築すべきである。	
現在の状況	
学生の学習進度を効率的に集約モニタする目的で、2018 年度に電子シラバス構築 WG を立ち上げ、電子シラバスに関連したブレインストーミングを実施した。2019 年秋に第 1 次システムを導入した。	
今後の計画	
IR 部門の内規を定め、情報センターの中で活動を促進・改善していく予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料3 令和2年度医学教育分野別評価改善・電子シラバス構築WG次第	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	

IR 部門が評価に有用なデータを収集し、カリキュラム評価部会でその結果を分析し、教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果および社会的責任について包括的に評価することが望まれる。
現在の状況
IR 部門が必要な情報の収集と解析を開始した。
今後の計画
IR 部門の内規を定め、情報センターの中で活動を促進・改善していく一方、大学全体の内部質保証システムの中にも組み込む予定である。解析結果についてはカリキュラム評価部会にて検討し、カリキュラム部会・教務委員会において評価と改善を行う体制を構築する。
現在の状況を示す根拠資料
資料3 令和2年度医学教育分野別評価改善・電子シラバス構築WG次第

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
IR 部門が評価に有用なデータを収集し、カリキュラム評価部会でその結果を分析し、プログラム改善に資することが望まれる。	
現在の状況	
IR 部門が必要な情報の収集と解析を開始した。	
今後の計画	
IR 部門の内規を定め、情報センターの中で活動を促進・改善する事で、解析結果をカリキュラム評価部会にて検討し、カリキュラム部会・教務委員会において評価と改善を行う体制を構築する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料3 令和2年度医学教育分野別評価改善・電子シラバス構築WG次第	

良い点・特色ある点として評価された項目

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
卒業生の実績を分析し、課題に対応していることは高く評価できる。	
現在の状況	
継続して行っている。	
今後の計画	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
IR 部門が学生の実績のデータを収集し、そのデータをもとにカリキュラム評価部会が使命と期待される学修成果、カリキュラム、資源の提供を分析すべきである。	
現在の状況	
IR 部門が必要な情報の収集と解析を開始した。	
今後の計画	
IR 部門の内規を定め、情報センターの中で活動を促進・改善する事で、解析結果をカリキュラム評価部会にて検討し、カリキュラム部会・教務委員会において評価に基づく改善を行う体制を構築する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料3 令和2年度医学教育分野別評価改善・電子シラバス構築WG次第	

良い点・特色ある点として評価された項目

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
卒業生に関するデータ収集を行っていることは評価できる。	
現在の状況	
継続して行っている。	
今後の計画	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
学生に関してもその実績のデータ収集を行い、責任ある委員会へフィードバックを提供することが望まれる。	
現在の状況	
教務委員会、学生委員会、寮指導主事会にて学生に関する実績データを把握している。	
今後の計画	
学生に関する実績データを IR に集積・解析し関連する委員会へ還元していく	

予定である。
現在の状況を示す根拠資料

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
カリキュラム評価部会に学生が参加しプログラムを評価すべきである。	
現在の状況	
学生からの意見を聞くカリキュラム連絡協議会が一層活発化し、様々な意見交換、改善希望などが出され、具体的な意見の吸い上げができています。	
今後の計画	
今後、カリキュラム評価部会への学生の意見反映体制を検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料4 カリキュラム連絡協議会議事録	

良い点・特色ある点として評価された項目

7. プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
各都道府県出身者を担当する教員や地域医療院外実習(CBL)の担当教員から卒業生の実績がフィードバックされていることは評価できる。	
現在の状況	
継続して行っている。	
今後の計画	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
基質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
学生に関してもその実績のデータ収集を行い、その評価結果を他の関連する教育の関係者に閲覧し、カリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。	
現在の状況	
医学教育センター教員が中心となって、他大学の医学教育専門家と情報交換な	

らびに学習の機会をとり始めた。医学教育学会などでも発表の機会がある。
今後の計画
学生の実績や評価結果について、フィードバックを求めていく。
現在の状況を示す根拠資料

【領域 8】

今後改善が見込まれる項目

8. 統括及び管理運営	8.1 統括
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
教育にかかわる委員会や部門の権限分離や役割分担を明記すべきである。	
現在の状況	
今後の計画	
委員会規定の見直しを行う。	
現在の状況を示す根拠資料	

良い点・特色ある点として評価された項目

8. 統括及び管理運営	8.1 統括
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
47都道府県の意見を定期的に聴取し、教育の管理運営に活かしている。	
現在の状況	
継続して行っている。	
今後の計画	
現在の状況を示す根拠資料	

良い点・特色ある点として評価された項目

8. 統括及び管理運営	8.2 教学のリーダーシップ
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
学長・医学部長のリーダーシップの責務が明確に示されている。	
現在の状況	
継続している。	
今後の計画	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

8. 統括及び管理運営	8.2 教学のリーダーシップ
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
医学部の使命と学修成果を観点に教学におけるリーダーシップを評価する仕組みを改善することが望まれる。	
現在の状況	
今後の計画	
今後検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	

良い点・特色ある点として評価された項目

8. 統括及び管理運営	8.3 教育予算と資源配分
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
顧問指導・学外卒後指導委員合同会議、都道府県自治医科大学主管課長会議からの意見を聴取し、資源の配分にあたり考慮している。	
現在の状況	
継続している。	
今後の計画	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

8. 統括及び管理運営	8.4 事務と運営
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
国の高等教育政策や私学助成に関する情報を収集し、教育管理運営に活かすべきである。	
現在の状況	
今後の計画	
今後検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

8. 統括及び管理運営	8.4 事務と運営
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
使命に沿った教育プログラムの遂行が適切に行えるよう、管理運営組織の定期的な内部質保証の仕組みを拡充することが望まれる。	
現在の状況	
大学基準協会の第3期認定評価を受審した。	
今後の計画	
医学部における内部質保証システムの拡充に向けて、改めて中期目標、年次計画の見直しを行い、教育については教務委員会において検討を予定している。	
現在の状況を示す根拠資料	

良い点・特色ある点として評価された項目

8. 統括及び管理運営	8.5 保険医療機関との交流
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
顧問指導・学外卒業指導委員合同会議、都道府県自治医科大学主管課長会議を通じて定期的に全国の地域医療を担う医師や行政部門、保健医療関連部門と意見交換を行い、建設的な交流を継続していることは高く評価できる。	
現在の状況	
継続している。	
今後の計画	
現在の状況を示す根拠資料	

良い点・特色ある点として評価された項目

8. 統括及び管理運営	8.5 保険医療機関との交流
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> 各都道府県に臨床教員を配置し、地域における臨床実習の調整等を依頼している。 学生は、6年次に行われる都道府県拠点病院実習における臨床実習を通じて、全国の保健医療関係部門のスタッフからの指導を受けていることは評価できる。 	
現在の状況	
継続している。	

今後の計画
現在の状況を示す根拠資料

【領域 9】

今後改善が見込まれる項目

9. 継続的改良	
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
IR 部門が評価に有用なデータを収集した後、カリキュラム評価部会でその結果を分析し、教務委員会に提言することで、教育プログラムが確実に改善されるシステムを実働させるべきである。	
現在の状況	
IR 部門が評価を開始した。	
今後の計画	
IR 部門の内規を定め、情報センターの中で活動を促進・改善する事で、IR 部門のデータ解析が、カリキュラム評価部会での分析、教務委員会における教育プログラム改善につながるシステムを実働させる。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料 3 令和 2 年度医学教育分野別評価改善・電子シラバス構築 WG 次第	